

論文審査の結果の要旨および担当者	
学位申請者	森脇 英一朗
論文担当者	主 査 若林 一郎
	副 査 鈴木 敬一郎
	副 査 小山 英則
学位論文名	The Anthropometric Assessment With the Bioimpedance Method Is Associated With the Prognosis of Cirrhotic Patients (バイオインピーダンス法による身体測定の評価は、肝硬変患者の 予後に関係した)
論文審査の結果の要旨 栄養評価における身体計測値は肝硬変の予後を反映する指標として広く用いられている。しかしながら身体計測は煩雑で、測定者間の誤差が大きいという問題がある。一方、バイオインピーダンス法（BIA 法）でも、上腕周囲長（AC）、上腕筋周囲長（AMC）といった身体計測値の推定値が表示される。しかしながらその算出原理は公表されておらず、推定値の妥当性については検証されていない。本研究は BIA 法による身体計測推定値の正確さ、さらには臨床的な有用性について、同一症例において管理栄養士が計測した実測値と同時点の BIA 法による推定値とを比較することにより検討した。 2006 年から 2018 年までに肝生検によって組織学的に肝硬変（F4）と診断され、かつ同日に管理栄養士による身体計測と BIA 法による身体計測推定値を求めた 197 例を対象として検討した。 実測値と BIA 法による推定値は、AC、AMC、%AMC、%AC のそれぞれの項目において正の相関を示した。また %AC と %AMC の実測値を用いた検討では、いずれも低値群の症例は高値群の症例より有意に生存率が低い結果であった。BIA 法による推定値を用いた場合も同様に、%AC、%AMC とともに、低値群では高値群より有意に生存率が低い結果であった。 以上の結果より、単独施設における後ろ向き研究であるという制限があるものの、BIA 法による身体計測の推定値は、管理栄養士による実測値と有意に相関し、また肝硬変患者の予後の指標としても有用と考えられた。従来の身体計測においては測定者や施設間の誤差を排除することは困難であったが、測定の標準化を図り精度を高めるために BIA 法は有用な手段になりうると思われた。本研究は栄養学的評価に関する臨床的に重要かつ実用的な知見であり、学位論文に値すると判断した。	